

The
LeaderinMe™

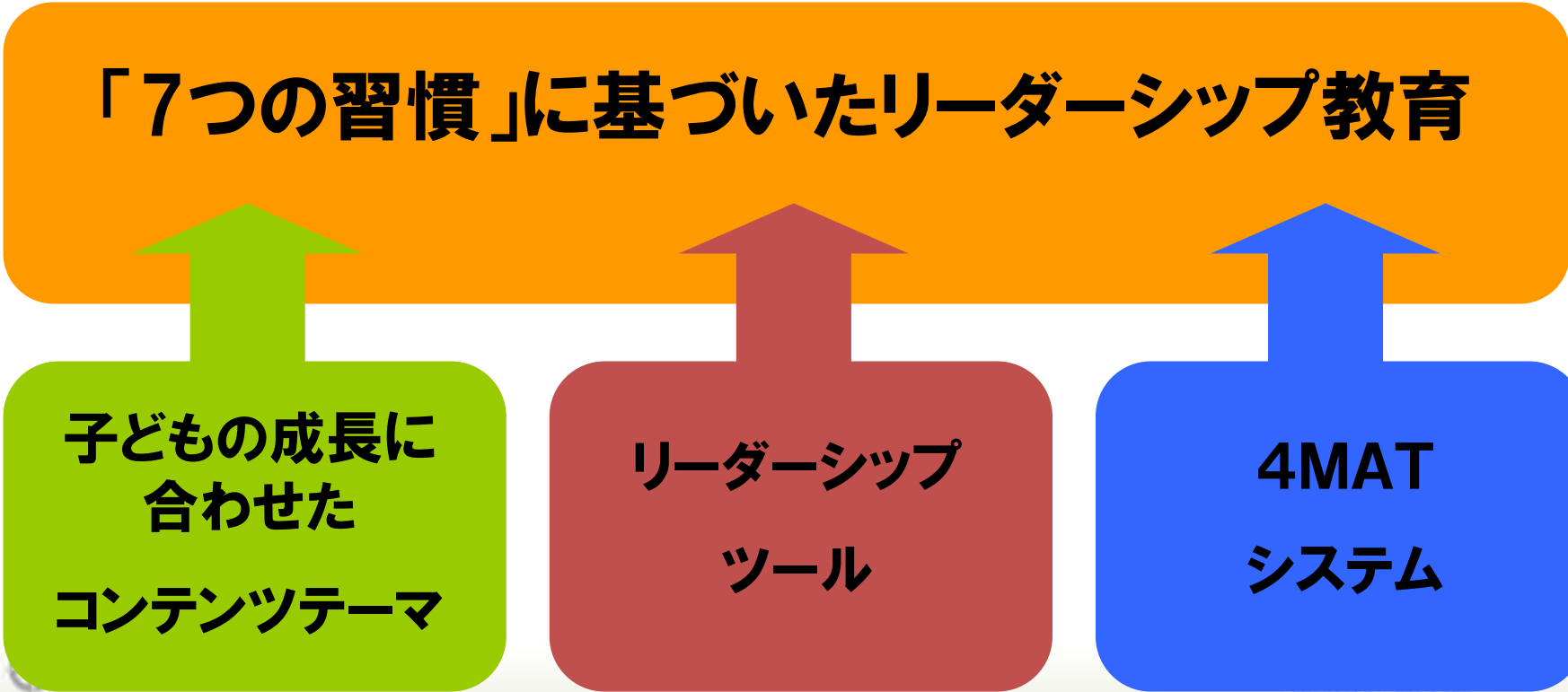


7つの習慣と The Leader In Meのご紹介



The Leader In Meはフランクリン・コヴィーがご提供する「リーダーシップ教育」のパッケージ・プログラムです。このプログラムにおいての「リーダーシップ」はCEOや社長などの地位ではなく、「人生の中に正しいものさしを持って、それに沿って行動する(=自己リーダーシップ)」ための方法として捉えています。

コンテンツは世界的ベストセラーの「7つの習慣」を基盤とし、子どもたちが学習しやすいよう様々な配慮をして開発されました。





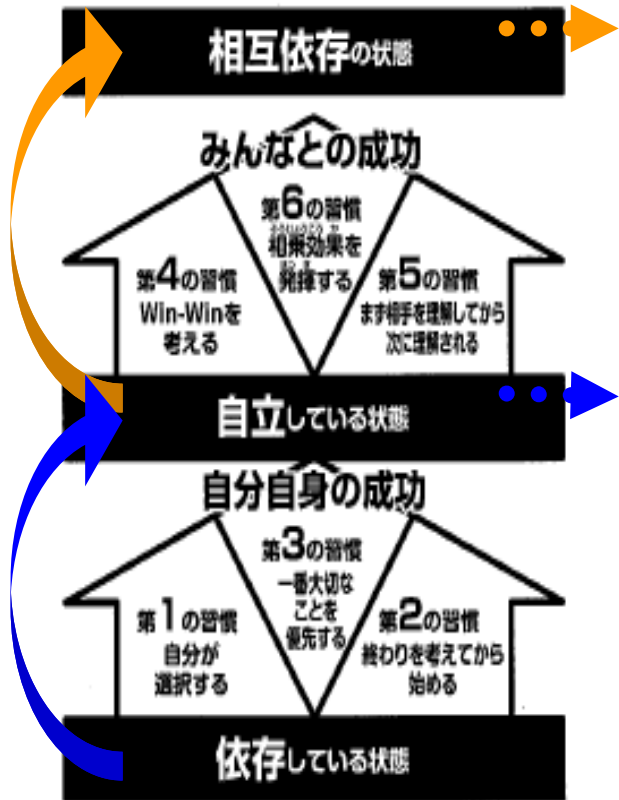
「7つの習慣」に基づいた リーダーシップ教育

「7つの習慣」とは？学ぶ意義とは？一体何がいいのか？を
ご紹介いたします。



「7つの習慣」に基づいた リーダーシップ教育

フランクリン・コヴィーのリーダーシップ教育は「**7つの習慣**」の考え方を基盤としています。「7つの習慣」は、自分の想いを実現して、望むかたちの成功を収めた人々の習慣を、他の人が実践しやすいように**体系化**し、「自立」から「相互依存」へと**段階的に発展**させていく仕組みになっています。7つの各習慣は下記の通りです。また、次のページからは、「**7つの習慣**」を学ぶ**意義**、**特長**をご説明していきます。



第7の習慣(自分を磨く)は、それぞれの習慣の効果を高めてよりパワーアップするためのものです。

自立から相互依存へ： チームワークを発揮し、円滑な人間関係を築く3つの習慣

第四の習慣	Win-Winを考える	自分が欲しいものを手に入れるだけでなく、他人の願望も考える／他人に信頼される人になる／意見が対立したときには第三案を模索する
第五の習慣	理解してから理解される	他人の考えや気持ちに耳を傾ける／相手の立場に立って物事を眺める／相手の話を最後まで聞く／自信を持って自分の意見を述べる／相手の目を見て話す
第六の習慣	相乗効果を発揮する	他人の長所を認め、自分も見習う努力をする／考えの異なる人ともうまく付き合う／他人と協力し合う／自分だけでやらず、他人と連携する方が効率的であることを知り、問題解決に際しては他人の意見を求める／常に謙虚さを忘れない

依存から自立へ： セルフ・リーダーシップを育てる3つの習慣

第一の習慣	主体性を発揮する	責任を果たす／皆の先頭に立って行動する／自分の行動、態度、気分は自分で決める／他人のせいにならない／自分から進んで正しい行動をする
第二の習慣	目的を持って始める	目標を設定し、前もって計画を立てる／意味のあることをする
第三の習慣	重要事項を優先する	自分の時間をもっとも重要なことに使い、すべきでないことにノーと言う／優先順位を決め、スケジュールを組み、実行する／自制心を発揮し皆と歩調を合わせる

自分を磨くための習慣

第七の習慣	刃を研ぐ	適切な食事、運動、睡眠によって健康に気を配る／家族や友人と過ごす時間を作る／学校だけでなく色々な方法、色々な場所で学ぶ／他人を助ける効果的な方法を見つけ出す
-------	------	--



7つの習慣を学ぶ意義①

■自分の考え、基準を作りだせる

自分とは何か？何を大切に思っているのか考え、そして他人の意見を知ることにより、自分なりの考え、基準が子どもたち自身の中にできてきます。基準ができると、周りにおこることについて、その基準に基づいて自分なりの判断をすることができるようになり、**ものごとを客観的にみられるようになっていきます。**

■ものごとに対して、自ら動けるようになる

7つの習慣の根っことなる考え方が「インサイド・アウト(自分から変わる)」ということです。これに基づいて、「全ては自分で選ぶことができる＝人のせいにしなない」という意識が強くなっていきますので、小さなことから大きなことまで、**起こることを‘自分のこと’としてとらえることができるようになります。**小学生では、「一人の時でもゴミを見つけたら拾う」「見て見ぬふりをしない」という自らの変化が多く報告されています。

■人生とは？成功とは？という、大切なことを考え、自分の意見をもつことができる

大切だと思っけていてもなかなか真剣に考える機会のない、生きる上での根本の部分について自分で、また周りの友達と意見を交換しながら考え、自分なりの考えを持つことができます。

次のページへ続く





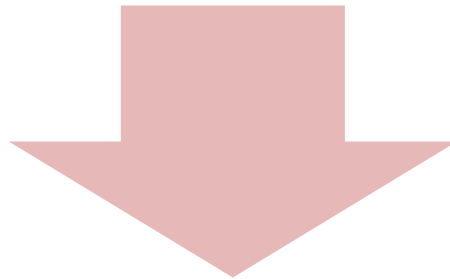
7つの習慣を学ぶ意義②

■生きてゆくために大事な原則を、実体験を通して学べる

「正直さ」「努力」「感謝」「寛大さ」というような、**生きてゆくために大事な原則的な言葉を、なぜ大事なのか？**ということとともに**体験を通して学べる**(例:正直さ←自信貯金や信頼残高の考え方、努力←影響の輪の考えかたや)ため、子どもたちの心の中に‘生きたもの’として残る。

■自分の周囲の人々を大事にできるようになる

「7つの習慣」では、**人との関係性と向き合い、それについて深く考える内容**が多く、また、様々なところで周りの人の意見を知ったり、交換したりするなど、経験を周囲と共有することで得られる新しい学びの場面もたくさんあります。そうすることで、子どもたちは自然と自分の周りの人を意識し、大切に考えられるようになります。



‘生き方の基本’が学べる



7つの習慣の特長(よさ)

○体系化されていること

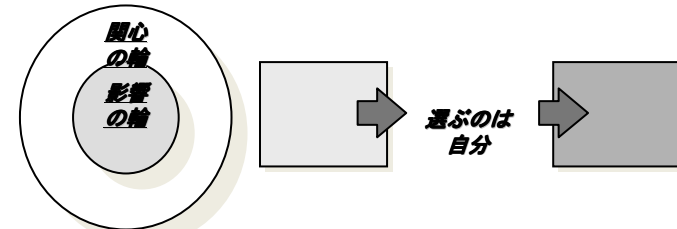
子どもたちの学びとなる話や内容は、世の中に数多くありますが、そうした「生きていくのに大事な考え方」を、ばらばらに与えるのではなく自分自身の自立から、周囲の人と協力しての大きな成果へ、というように体系化されていることが、「7つの習慣」の大きな特長です。

進むべき方向がわかるため、実践しやすく、小さなことからでも自分のものとしていきやすいのです。

○モデル図やキーワードを多用していること

モデル図 →内容の理解を助け、考えを整理するのに役立つ

理解するのが難しい考え方や、複雑な内容も、図に表して整理できるのでわかりやすく、またほかの場面でも子どもの考えを整理する力強いサポートになります。



影響の輪・関心の輪

主体性と反応性

キーワード →7つの習慣を学ぶ人全ての共通言語となり、
子どもを動かす

「7つの習慣」には、「一時停止ボタン」「Win-Win」「信頼貯金」「自信貯金」など、他にはないキーワードがたくさん出てきます。

こうした、キャッチーで記憶に残りやすい言葉がどこへでも持って行ける学びのツールとなり、**日常生活の中での実践に大きな役割**を果たします。また、教えた先生と子どもの中に共通語ができるということは、**子どもたちと共通の文化をもつ**ようになります。さらに家族で学ぶことで、親と子の間にも共通文化が生まれます。

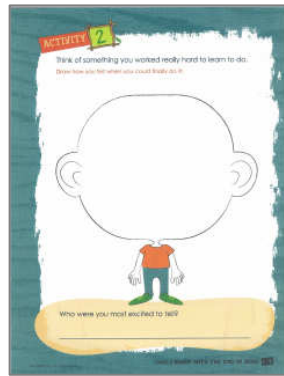


子どもの成長に合わせた コンテンツテーマ

子どもたちが学習しやすい教材の工夫 その①

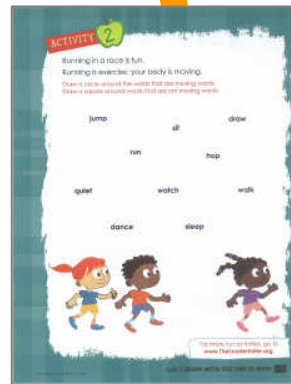
子どもの成長に合わせた コンテンツテーマ

●対象年齢の発育レベルに合わせてテーマを設定し、学び方も発展していきます。



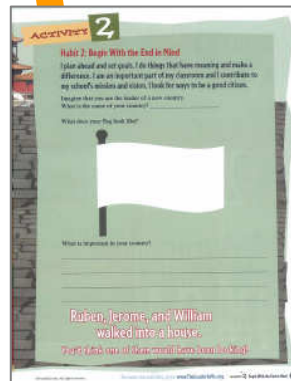
1年生:「読み物」
「一生懸命勉強したときのことを思い出してみよう。そして、ついにそれができた時の気持ちを絵で表してみよう！」

※自分の努力が実ったときの気持ちを思い出させます。



2年生:「健康」
「レースで走ることは面白い。走ることは運動です。身体を動かすということです。～運動している単語を○で囲みましょう。運動していない単語を□で囲みましょう」

※身体を動かすためにはどんなことができるかを考えます。



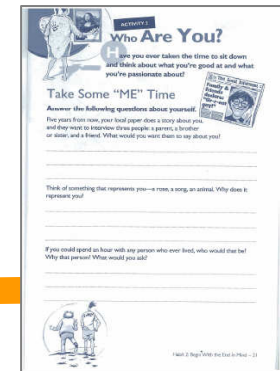
3年生:「文化意識」
「あなたが新しい国のリーダーになったら、その国の名前や国旗はどんなものになりますか？またその国にとって大事なものは何だろうか。」

※リーダーとして何を目標していくかを考え、何かを始める前に、まず終わりを考えることを学びます。

5年生:「歴史上のリーダーたち」



「あなたは学校をより良く見せる改革をしようとしています。あなたのタスクは他の人にもあなたの活動に協力してもらえるようにポスターを作ることです。他の人に、一緒に活動をしたら、学校がどのように変わるかを見せましょう」



6年生:「自分自身」

「これまで、あなたがどんなことが得意でどんなことにやる気があるか考えたことがありますか？少しの間、「自分時間」を取ってみましょう」「以下のあなたに関する質問に答えてください（例）今から5年後、新聞であなたのことが取り上げられるとしたら、どんな内容で記事にしたいと思いますか？」



4年生:「自然の生き物」

「5日後に旅行に行くとしたら、何をしなければならないだろうか？下記のタスクをガントチャートに入れてみよう」（タスク例）近所の人に、留守中の犬の世話を頼む。

※旅行に行くことをゴールとして、その前に何をやらなければいけないかを整理し、予定を作成します。

※上記サンプルは、各学年のテキスト中の、「第2の習慣」アクティビティ2です。




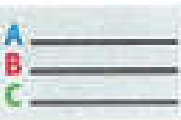



リーダーシップツール

子どもたちが学習しやすい教材の工夫 その②

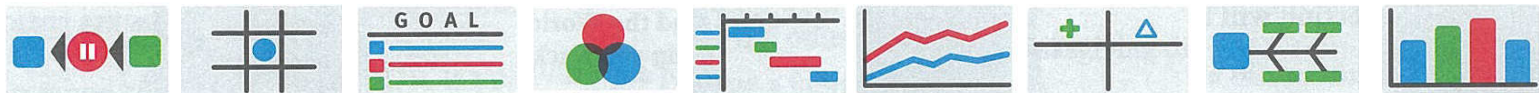
リーダーシップツール

The Leader In Meでは、生徒が「自分で考える」「情報を整理する」「問題を解決する」のに役立つ、14つのリーダーシップツールを学び、日常生活の中でも活用できるようになります。

● リーダーシップツールの一例

	<p>影響の輪 Circle of Control Chart</p>	<p>このチャートは生徒が「影響できるものに集中する」のを助けます。ある場面において、自分が「影響できるもの」を内側の輪(影響の輪)に記入し、次に、自分と関係はあるが影響することができないものを外側の輪(関心の輪)に記入します。例えば、「時間通りに学校に着く」ために、「渋滞」「天気」は関心の輪に入りますが、「起きる時間」「着替えて学校に行く準備をする」というのは影響の輪に入ります。</p>
	<p>プライオリタイザー Prioritizer</p>	<p>プライオリタイザーは「重要事項を優先する」ための便利なツールです。生徒はまずやらなくてはいけないタスクを全てリストアップし、次に、タスクの横にA(最重要)・B(重要)・C(あまり重要ではない)の優先順位を記入していきます。ABCを使う代わりに、123・・・と数字を使うこともできます。</p>
	<p>シナジャイザー Synergizer</p>	<p>このツールは、ある場面で、意見が分かれた時に活用します。このツールにより、生徒たちは、分かれた意見のいずれにも勝る、「第三案」を見つけることができます。緑の枠の中に自分の意見と相手の意見をそれぞれ記入します。そして、妥協するのではなく、どちらの意見にも勝るよりよい第三案を模索し、上の青い枠に記入します。</p>
	<p>フローチャート Flowchart</p>	<p>フローチャートは何かを計画したり、物事のプロセスを把握するために役立つ、情報整理のためのツールです。生徒は、様々な授業におけるプロジェクトなどで、プランを作成したり、毎日の活動の記録を残しておくのに役立てることができます。</p>
	<p>ブレインストーマー Brainstormer</p>	<p>ブレインストーミングはクリエイティブに考えたり、計画したりするのに役立ちます。生徒は、自由にアイデアを出したり、整理したりすることができます。ブレインストーマーの使い方は、紙の中央にメインピックを書き、その周りに、関連するコンセプトを書き出します。ブレインストーミング中は、批判をしたりアイデアを消したりせず、できるだけたくさんのアイデアを出すようにして、創造性を十分に使うようにします。</p>

その他のリーダーシップツール・・・





4MATシステム

子どもたちが学習しやすい教材の工夫 その③

4MATシステム



The Leader In Meは、右脳と左脳の機能の違いを考慮した、4つのスタイルを循環的に学習する複合的なカリキュラム設計方法である、4MATシステムを採用しています。4MATシステムは、
 ■具体的経験→
 ■熟考を伴う観察→
 ■抽象的な概念化→
 ■積極的実験へと進みながら学びを深めていくことができます。
 それぞれの習慣は5つのアクティビティから構成されており、このアクティビティは4MATシステムに基づいて発展していきます。

※下記サンプルは、3年生のテキストの第2の習慣のアクティビティです。

アクティビティ 1	アクティビティ 2	アクティビティ 3	アクティビティ 4	アクティビティ 5
<p>これまでに体験したこと・学んだことを振り返りながら、自分自身と各習慣で学ぶコンセプトを関連付けます。</p>	<p>子どもたちの創造性を引き出します。</p>	<p>新しい知識を学びます。</p>	<p>アクティビティ3で学んだ新しい知識を、子どもたちが自分自身の生活に反映し、活用できるように促します。</p>	<p>より学びを深めるため、新しい知識を活用していくための自分とのコミットメント(約束)をします。</p>
<p>ブレインストーマーを使って、学校の年間行事の中であなたにとって大事なものを書き出してみよう！また、それはあなたの影響の輪の中にあるかどうか考えてみよう。</p>	<p>あなたが新しい国のリーダーになったとしたら、その国の名前や国旗はどんなものになりますか？またその国にとって大事なものは何だろうか。</p>	<p>中国の学生はまず目的を設定し、それに向かって一生懸命勉強します。あなたと中国の学生に似ているところはあるだろうか？</p>	<p>あなたのゴールを小さなステップにしましょう。ガントチャートを使って今週できるステップを書いてみましょう。</p>	<p>中国の学生はなぜ自分は学校に行くのかを理解しています。あなたは何のために学校へ行くのですか？書いてみましょう。</p>



「7つの習慣」導入の成果 (国内事例)

「7つの習慣」を学んだ子どもたちやその保護者の声を
原文のまま抜粋しました。



7つの習慣を学んだ 子どもたちの声

弟は、よく私を怒らせるのです。でも、このごろは「主体的」という言葉が頭に出てきて、そうすると、少しは落ち着きを取り戻し、優しく接することができるようになりました。

一番変わったのは人間関係だと思う。私は4年生までいじめられて、家に帰って泣いたりすることもあったけれど、7つの習慣を学んでから前よりも気にしなくなったし、人間関係も良くなった。知ってしまうと、もう後にも戻れないなと、怖さを感じることもある。

僕は7つの習慣を学んで、自分が自分でない位に変わりました。第四の習慣WinWinを考える、の授業をやるまでは、食べ物で余ったものでもジャンケンで決めていた。今はWinWinを考えて、半分になっている。「一時停止ボタン」を押してから、誰かとけんかになりそうになっても、すぐに怒ったりしないようになった。

…見方に寄って見えるものが違ってくるといことです。私は心がしっかり安定していなかったということです。今まで当たり前だったことが、パァーッと変わりました。色々関心はあるけれど、その前に自分を変えなくちゃ。こう思っているだけで、自分がもう変わっている気がします。何もかもが違う感じで少し楽しいです。ウキウキします。

日常にごろごろ転がっている普通のことについても、いろいろな考えが持てるようになった。たとえば、前はゴミを見つけても誰かが拾うだろうくらいにしか考えていなかったけど、今はほとんど拾えるようになった。

※小学生と中学生からの感想、全て原文のまま抜粋



7つの習慣への保護者の声

こどもが少し変わったのがわかります。今までは全然考えていなかったのが、ささいなことでも、どのようにすればいいのか？何を先にやればいいのか？と口に出すようになり、「悩む」こと「考える」ことを始めました。

2学期に入り、翌日の用意など忘れてはいけない物を玄関まで持っていったりしているのは、この勉強のおかげで消化？母としては成長してくれているんだなあ嬉しく思います。

基本的な性格は変わっていませんが、7つの習慣を始めてから、本人なりに一生懸命取り組む姿が見られるようになってきました。たとえば、運動会の前は家で唐律の連集をしたり、西小祭りの前には自らスーパーにいき段ボールをもらってきたり…。ささいなことですが、自ら！というのがあまりなかったので、親の目から見ると前向きな姿勢が感じられ、うれしく思います。

土の習慣も大人にとっても重要な大切な話だと思います。これから大人になっていく子供たちも含め、家でも、すぐにWからなくても話すことを大切にしたいと思います。

信頼残高の授業のあと、息子と「ありがとう貯金」をやりました。カレンダーに★のシールを貼ったら、視覚的に励みになるようで、「たまった！」と嬉しそうに言っています。最近では、ちょっとしたことにでも感謝の気持ちを言葉にできるようになったと思います。：



「7つの習慣」導入の成果 (海外事例)

本社のあるアメリカからはすでにたくさんの成功事例が届いています。
「7つの習慣」を学ぶことで子どもたちが、そして学校がどう変わったか、
数字データと共に詳細なストーリーでもご覧いただけます。



A.B.コムス小学校

	リーダーシップ教育 導入前	リーダーシップ教育 導入後
入学希望者数 (Magnet School)	350	850 待機児童リスト上の制度を除く
学期末テストの合格 率	67%	95%
専門機関への 学習訓練委託対象 生徒数	激減(具体的数値なし)	
その他の成果	<ul style="list-style-type: none">• 生徒の自信感向上• 自己学習環境の向上• 学校に対する父母満足度飛躍的Up• 教師の熱心さ向上	



Results for A.B. Combs Elementary, Raleigh, North Carolina

※詳細については(参考)をご覧ください。



イングリッシュ・エステート小学校

	リーダーシップ教育 導入前	リーダーシップ教育導 入1年後
専門機関への 学習訓練委託件数	225	74
フロリダ州学校評価	B	A
学校に対する 父母満足度	——	98%
生徒が達成したこと	•複数の教科で35%の点数アップ •地区で最も学力的な向上を遂げた学校として 表彰	

Results for English Estates Elementary, Fern Park, Florida

※詳細については(参考)をご覧ください。



デューイ小学校 イリノイ州標準学カテスト結果

	7つの習慣 導入前 (2005)	7つの習慣 導入3ヶ月後 (2006)	7つの習慣 導入1年3カ月 後 (2007)
読解力	57.4%	72.2% ↑	89.7% ↑
数学	77.4%	90.3% ↑	100% ↑

Results for Dewey Elementary, Quincy Illinois





ジョセフ・ウェルシュ小学校 父母たちの声

調査結果	7つの習慣 導入前	7つの習慣 導入1年後
父母： 生徒たちは、卒業までに学力面で自ら成功できるような学び方や姿勢を教えられていると思う	69.4%	92.3% ↑
教職員： 「生徒たちは、卒業までに学力面で自ら成功できるような学び方や姿勢を教えられていると思う	77.8%	100% ↑
父母： 「生徒たちはよき市民としての人格のモデルになるであろうと思う	81.4%	90.7% ↑

Results for Joseph Welsh Elementary, Alberta, Canada



ジョセフ・ウェルシュ小学校 父母たちの声

調査項目	7つの習慣 導入前	7つの習慣 導入1年後
父母： 「生徒たちは地域のための活動に参加することを奨励されている」と思う	65%	100% ↑
父母： 「生徒たちはお互いを尊重し合っている」と思う	84%	98% ↑
学校運営に支障をきたす規律違反 発生件数		67%減少

Results for Joseph Welsh Elementary, Alberta, Canada



ジョセフ・ウェルシュ小学校 生徒、父母、教職員の声

調査項目	反対	賛成
生徒： クラスや学校で、リーダーになるチャンスがあると感じる	5%	95% ↑
父母： 「7つの習慣」をベースとした教育プログラムは、子供の学校の雰囲気をも明るくするのに影響があった	1%	99% ↑
父母： 「7つの習慣」をベースとした教育プログラムが、今後も子供の学校で続いてほしいと思う。	3%	97% ↑
教員： 「7つの習慣」をベースとした教育プログラムは、生徒が日常生活の中で必要な原則を生徒に教えるのに役立っている。		100% ↑

Results for Joseph Welsh Elementary, Alberta, Canada



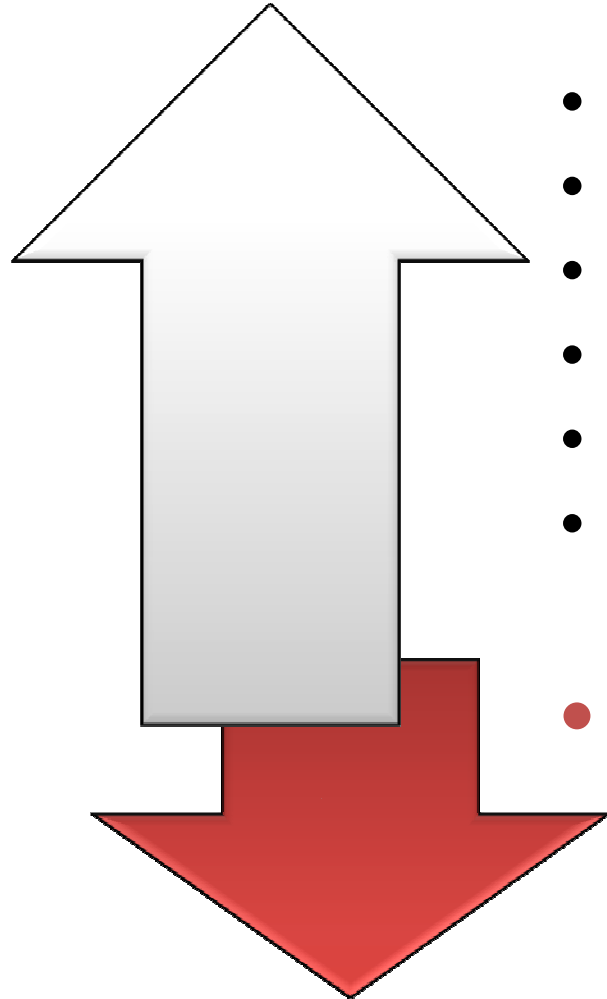
ジョセフ・ウェルシュ小学校 教職員の声

調査項目	反対	賛成
全職員： 「7つの習慣」プログラムのおかげで、学校全体で生徒や職員、父母がよりよいコミュニケーションができるようになった		100%
全職員： 「7つの習慣」プログラムは、学校によい影響を与えている		100%
全職員： 「7つの習慣」プログラムが、学校で続いて欲しいと思う		100%

Results for Joseph Welsh Elementary, Alberta, Canada



実施校でみられる共通の傾向



- 生徒の学業成績の向上
- 生徒の自信感の顕著な向上
- 教員と理事など学校職員の仕事満足度の向上
- 父母満足度の向上
- 学校文化の改善
- ビジネス界や地域のリーダー達からの援助

- 専門機関への学習訓練委託件数の激減



(参考) A.B コムス小学校

リーダーシップ文化の開拓的試み ～A.B.Combs Elementary School、ノースカロライナ州ラリー～

学校が抱えていた課題

1998年、Murrel Summer校長がノースカロライナ州ラリーにある同校に着任した当時、同校は志願者の少なさに苦しんでおり、地域の監督官は校長に対して、志願者数をUpさせるための新しいMagnetテーマ(学校の主テーマ)を採択するか、Magnet Schoolとしてのスタイルを放棄し、伝統校に戻るかの選択が必要だと校長に宣告した。

Summers校長はコヴィー博士の講演を聞き、「7つの習慣」をベースにしたリーダーシップMagnet Schoolを作ることを決意、地域のリーダーをはじめとして教職員、父母達とこのリーダーシップ教育のアイデアについて協議を始めた。すぐにわかったことは、関係者たちは皆同じことを望んでいるということがわかった—責任感があり、優しく、すべきこと、すべきでないことの判断がつき、そしてもちろん、よい生徒である子どもになってほしいと願っていた。

‘生徒一人一人をリーダーに育て上げる’—これが、A.B.Combs Elementary Schoolが選んだテーマになった。

リーダーシップ教育実施の過程

新たなリーダーシップ教育計画を実行するため、教職員たちがしたこと:

- ・「7つの習慣」セミナーに参加した
- ・「7つの習慣」だけでなく、ボルドリッジの品質原則、ロバート・クーパー博士の「心の知能指数」研究、「優れた学校に共通する7つの特徴」研究などを統合し、それらをベースにしたリーダーシップ教育テーマを整理した
- ・生徒一人一人が個人目標、また学力面での目標を記録したり、図表化できるようにするための、個人データ表を作成した

成果

上記のリーダーシップ教育プログラムの結果として、A.B.Combs Elementary Schoolは目覚ましい成果を上げた。

- ・全米トップ6のMagnet School(アメリカ教育省、2008年)
- ・全米モデル校(リーダーシップ教育国際センター、2007年)
- ・全米偉業賞(2007年)
- ・Magnet School オブアメリカ(ロナルド・シンプソン、2006年)
- ・全米優秀Magnet School(2001年、2002年、2004年、2007年)
- ・全米功労Magnet School(2003年)
- ・全米個性校賞(2003年)
- ・優秀校(ノースカロライナ州、2001年、2002年、2003年、2004年、2006年、2007年)



(参考) イングリッシュ・エステート小学校

リーダーシップ文化を創造する ～English Estates Elementary School、フロリダ州ファーンバーグ～

学校が抱えていた課題

2004年、フロリダ州ファーンパークにある40年の歴史を持つかつてのトップ校、English Estates Elementary Schoolはかつての光を失っていた。

- ・AYP(十分な年度カリキュラム:アメリカの基準)が数年にわたって満たされていなかった。
- ・55%の生徒が無料、あるいは減額給食対象児童だった。
- ・学習訓練を必要とする生徒の割合が、他の小学校と比較して高かった。

学校を革新する方法を探していた矢先、Beth Sharpe校長はノースカロライナ州のA.B.Combs Elementary Schoolでのリーダーシップ教育プログラムのことを知る。

リーダーシップ教育開始まで

1999年、A.B.Combs Magnet Schoolは「7つの習慣」をベースにしたリーダーシップ教育プログラムを採用。「7つの習慣」プログラムの初年度すでに、94%の生徒が学校が行う期末テストに合格しており、最終的には97%に達し、そのレベルを維持し続けた。2006年、同校はアメリカでNo.1のマグネットスクールであるとされた。Sharpe校長は、同校のSummer校長と何度も話し合い、どうしたらこの成功をEnglish Estates Elementary Schoolで実現できるかを思案した。

English Estates Elementary Schoolでのリーダーシップ教育開始

2005年プログラムスタート。教職員は学校が始まる最初の2週間のかなりの部分を、生徒に「7つの習慣」を教えること、その年の学校全体の目標を設定することに費やした。最初のターム終了後、教職員は、学校内で重要な他の様々なコンテンツと統合させることにより、「7つの習慣」を学校内で生きたもののように試みた。

メインの学習カリキュラム ・校内言語 ・学校独自プログラム ・日常的に行う下記のディスカッションテーマ

→ Readers are Leaders(読書する人はリーダーである)の採用

全クラスが、クラスのミッション・ステートメントとクラス旗を作成

生徒自身が父母会を招集、結果として参加率は50%増

担任はクラスの成長度合いをモニタリングし、そこからクラスが一体となって取り組むべき課題を抽出。

成果

リーダーシップ教育開始初年度内に、下記の成果が達成された。

- ・English Estates Elementary School はAにランクされ、初めてAYPを達成。
- ・学習訓練を必要とする生徒数は225名～75名に減少。
- ・学校に対する父母の支持率が98%に上昇。
- ・地域の「偉大なる進歩を遂げた学校」として表彰。



(参考) チェスナット・グローブ小学校

ビジネスパートナーシップがリーダーシップスキル向上に果たした大きな役割 ～Chestnut Grove Elementary School、アラバマ州ジケーター～

パートナーシップを結ぶ

2004年、エナーソルブ社CEOドニー・レインはスティーブン・R・コヴィー著『第8の習慣』を読み、A.B.Combs Elementary Schoolにおける、「7つの習慣」をベースにしたリーダーシップ教育プログラムの成果に大いに興味をひかれた。彼は自分の住むアラバマ州ジケーターの生徒もこの方法で教育できないかと考えた。また、彼は地域コミュニティにおいて、ビジネスと学校との強い連携を築きたいと考えていた。そこでドニーはChestnut Grove 校長ルン・レッタ・ティークに会い、どのようなパートナーシップが可能か、また自らが地域の生徒たちに対してどんな変化を生みだすことができるか、相談した。

ティーク校長はリーダーシップ教育に興味をひかれ、またレイン氏の熱心さに心を動かされた、もっとこの教育方法について学びたいと切望した。レイン氏は小型機を手配し、ティーク校長を始め数人の学校スタッフ、数人の父兄をA.B.Combs Elementary Schoolの視察に招待した。

「7つの習慣」トレーニング

視察後、A.B.Combs 訪問メンバーは、生徒の当事者意識や責任感を向上させるという点において、いかに「7つの習慣」が効果的であるか、興奮して校内にレポートした。校内のスタッフはメンバーの熱意を感じ取り、このプログラムをChestnut Grove でも実施したいと思うようになった。レイン氏はその後2005年にも援助を実施、学校の全職員と2組の父母に「7つの習慣」トレーニングを受けさせた。

「7つの習慣」のトレーニングを受けることでスタッフたちは：

- ・学校の新たなビジョンを創りだすことができた
- ・お互いがきずなを強め、一体となって働きかけることができるようになった
- ・共通言語を得た(7つの習慣で使われる用語)
- ・各習慣を生徒に伝えるためにどうしたらよいか、アイデアを出し合えた

「7つの習慣」を統合する

Chestnut Grove では、個々の7つの習慣授業を作成するためには多くに時間を費やさなかった、代わりに、チャンスがあればいつでも7つの習慣を教えられるように統合した。これは教職員や生徒にとって、自然のことだった。他には、以下の訪欧で学校の生活の中に7つの習慣が取り入れられた：

- ・全校放送のモーニング・ニュースで、リーダーシップに関する教訓が共有される
- ・学校の玄関や廊下を、7つの習慣を想起させる言葉や図で飾り付ける
- ・ジケーターの公共事業局による特別な堂慮標識を作成し、学校の廊下に習慣の名称をつけられるようにした
- ・音楽教師が作った7つの習慣ソングを、全校集会で皆で歌う

